

《履修上の留意事項》デジタル資料配信やグループ討議で使用するため、PC・タブレット・スマホなどの情報ツールを受講時に必携する。

《担当者名》長谷川 聡 haseg@hoku-iryu-u.ac.jp

【概要】

本科目はコミュニケーション臨床のイメージ形成とマインド醸成に重点を置き、聴覚言語障害学を学ぶ基本としてコミュニケーション障害の実際と課題を理解するために、心身障害者像および関係者特性とコミュニケーション学の基本事項を「自分事」として学ぶ。

【学修目標】

言語的リハビリテーション活動の対象となる障害者や家族・地域社会等の特性とコミュニケーション課題を理解するために、心身障害の対象別イメージ、関係する社会構成員の役割特性に関する基本的知識を説明できる。

1. 心身障害の対象別障害像を説明できる。
2. 障害別コミュニケーション課題の基本問題を説明できる。
3. コミュニケーション学、コミュニケーション障害学の基本事項を説明できる。
4. 学生自身の聴覚言語学的、コミュニケーション学的特徴を自己覚知できる。
5. 「コミュニケーションへの配慮」「傾聴の態度」「ことばの介助」を説明して実践できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション	1. シラバスと学修方法を説明できる。 2. 学生の個別学修課題を検討して自ら説明できる。	長谷川 聡
2	コミュニケーション実践論概説	1. コミュニケーションの原理と基本事項について検討する。 2. ケアリングとケアリング・コミュニケーションの基本事項と概要について検討して説明できる。	長谷川 聡
3	対象別コミュニケーション1	高齢者の特性とそのコミュニケーションへの配慮について検討して説明し実践できる。	長谷川 聡
4	対象別コミュニケーション2	認知症者の特性とそのコミュニケーションへの配慮について検討して説明し実践できる。	長谷川 聡
5	対象別コミュニケーション3	聴覚障害者の特性とそのコミュニケーションへの配慮について検討して説明し実践できる。	長谷川 聡
6	対象別コミュニケーション4	言語障害者の特性とそのコミュニケーションへの配慮について検討して説明し実践できる。	長谷川 聡
7	対象別コミュニケーション5	発達障害者の特性とそのコミュニケーションへの配慮について検討して説明し実践できる。	長谷川 聡
8	対象別コミュニケーション6	高次脳機能障害者の特性とそのコミュニケーションへの配慮について検討して説明し実践できる。	長谷川 聡
9	対象別コミュニケーション7	精神障害者の特性とそのコミュニケーションへの配慮について検討して説明し実践できる。	長谷川 聡
10	対象別コミュニケーション8	知的障害者の特性とそのコミュニケーションへの配慮について検討して説明し実践できる。	長谷川 聡
11	役割別コミュニケーション1	当事者家族への関わりとそのコミュニケーションへの配慮について検討して説明し実践できる。	長谷川 聡
12	役割別コミュニケーション2	専門職による地域・住民への関わりと地域リソースについて検討して説明し実践できる。	長谷川 聡
13	役割別コミュニケーション3	多職種連携と職種間コミュニケーションへの配慮について検討して説明し実践できる。	長谷川 聡
14	役割別コミュニケーション4	医療福祉職場の構造と価値について検討し、職場のコミュニケーションへの配慮について説明し実践できる。	長谷川 聡

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
15	総括と討議	<p>障害別・役割別対象理解とコミュニケーション実践を総括し、その意味・目的・価値について振り返り検討して説明できる。</p> <p>期末課題の詳細と意図を知り課題に取り組む。</p>	長谷川 聡

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

1. 平常点（グループワークへの参加と役割課題）30%、リアクション・シート20%、期末課題50%。
2. リアクション・シートはオンライン提出確認後、個別にコメントを付して返却する。
3. 期末課題はオンライン提出確認と評価後、自己評価用資料としての全体講評を付して返却する。

【教科書】

介護初任者研修テキスト2 コミュニケーション技術と老化・認知症・障害の理解・小池将文/森繁樹監修・日本医療企画

【参考書】

保健医療専門職のためのヘルスコミュニケーション学入門・石川ひろの・大修館書店

【備考】

1. manabaを活用して資料配信、学習課題提示を行う。
2. manabaとGoogle Formを活用してリアクション・シートやレポートを管理し、提出物には教員コメントを付して返却する。
3. manabaを活用して全体・個別の授業連絡や質疑応答・学修相談などを行う。
4. 面接授業を同時録画記録し適宜オンデマンド配信する。なお原則としてその視聴をもって出席とする扱いにはせず、例外とする場合は視聴を確認するための追加課題を課す。

【学修の準備】

< 予習 >

1. 各回学修内容に該当する教科書部分を音読通読して、不明の漢字、欧文文字、用語などの読みと意味を調べて書き込みやノート作成などを行う。
- (各回80分)

< 復習 >

1. リアクション・シートの教員コメントを読み、必要希望があればさらにコメントを返す。
 2. 授業時の配布資料・紹介資料を読む。
 3. 教科書の参照・参考文献等を収集して読む。
- (各回80分)

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

(DP1) 生命の尊厳と人権の尊重を基本とした幅広い教養、豊かな人間性、高い倫理観と優れたコミュニケーション能力を身につけている。

【実務経験】

行政職員(身障更生相談所福祉技術職)、社会福祉法人理事長

【実務経験を活かした教育内容】

相談機関・医療機関での実務経験を活かし、傷病者・障害者とその家族の相談やケアの方法、あるいは関連機関・関連職種・地域住民とのコミュニケーション・スキルについて講義するとともに、グループワークによる実践的コミュニケーション訓練を体験する。